



高知県立大学と北川村の観光プロジェクト

# きたかわ かたる



# 語り伝えることの大切さと 北川村への思い。

「北川村を新たな視点で見てもらいたい」  
全てはそんな思いから始まりました。

専門家の視点ではなく、既に多くのモノを見てきたへ大人々の視点からでもなく、きっと既成概念にとらわれにくいであろうへ若者々の視点で見た北川村を知りたい。それが北川村の新たな魅力となるのではないか。

そんな思いに応えて下さったのが、高知県立大学文化学部の学生たちと飯高伸五先生。北川村での「フィールドワーク」として2012年にこの事業は始まりました。

1年目の参加学生が村で活動する様子や、見たもの、感じた事を自身の言葉や文章で表現した内容を見た時、「ああ、もっとと明確に要求すれば、学生達は更に多くの可能性を見出してくれる」と感じ、今年、2年目の参加学生には北川村のへ今と昔々を比較してもらい、エッセイにしてもらいう事をお願いしま

した。今に残る村の昔の写真や文章、村人からの聞き取りを通じて感じた事を自身の言葉で表現してもらいたい。そんな要望を受けて懸命に活動を進めていく学生達の姿を見ていると、出来上がったものは限られた者達の間で見て満足するのではなく、ぜひ多くの方に見て頂きたい、という思いが強くなり、この冊子を作成する事にしました。

村の年配者が地域の子供達がまた次世代へ語り継いでいく事は故郷を持つ者の使命であり、決して途絶えさせてはいけない事だと考えています。しかし、その子供の数が減少し、核家族化が進む今、「語り伝える」機会が少なくなっているように感じます。しかし、語り伝える事を止めてはいけません。方法はいくらかあってあるはずです。村民間だけではなく、村外の人に村の歴史を語り伝えていく事も一つの方法だと思いました。

今回、北川村に縁もゆかりもなかつた学生が北川村の人と歴史に触れ、自身の言葉でエッセイにしたこの冊子を目にしてくれた方が北川村を知り、この冊子を片手に北川村を、ぱーしてくださった。そして、いつかどこかで「北川村」を語ってくださった、この先もずっと北川村のへ今と昔々は繋がっていくのではないか。学生とこの冊子が北川村の【語り部】を担ってくれるのではないか。そしてこの活動を通じて、参加学生が自身の家族や生まれ育った地域のへ今と昔々に興味を持つてくれた。そんなたくさんに欲張った想いを込めた冊子です。皆さん、ぜひじっくりとお楽しみください。



## ● 04 大学生による観光資源のフィールドワーク

高知県立大学文化学部講師 飯高伸五

## ● 06 人も木も、恋も運んだ森林鉄道

井上美友紀 加藤愛理 中間美希 平野陽太

## ● 13 魚梁瀬森林鉄道軌道跡

## ● 14 北川村伝説

小谷明日美 森本亜美 高橋わかかな 枝松明里

## ● 18 天狗に会える場所!? 一歩いて見つける! 星神社の魅力☆一

高木麻奈美 谷岡美咲 和田綾花

## ● 22 きたがわかたるギャラリー

## ● 23 イラスト MAP、交通アクセスなど



フィールドワークに参加した学生たち。不動の滝にて(2013年7月14日)

## 大学生による観光資源のフィールドワーク

高知県立大学文化学部講師 飯高 伸五

都市部で学ぶ大学生に比して、地方で学ぶ大学生には、ある学習環境の利点がある。豊かな文化を継承してきた地域社会のなかで、地域の人々とともに学び、考える環境に恵まれているという点である。高知県立大学文化学部では、2012年度から北川村役場と北川村観光協会の協力のもと、ファイ

ルドワークという授業の取り組みのなかで、受講生が北川村の観光資源を現場で学び、モデル観光コースの考案や観光パンフレットの作成などを実行している。

ここに作成された『きたがわかたる』は、北川村と高知県立大学文化学部が連携して行ってきた取り組みの成果の定め、地域社会の人々への聞き取りを行なながら、村の「今」と昔を学んでいった。そして、村の人々や日常的な光

景を写真におさめていった。こうした書きまと写真をもとにして、現場での体験を踏まえて「北川村のみどころ」を紹介するフォトエッセイを作成しようと試行錯誤を重ねた。

ここに収録された3つのエッセイは、森林鉄道、村の伝承、星神社を対象としている。どれもまだ不十分なところもあり、荒削りではあるが、それ故にかえっておもしろさや可能性もあり、一風変わった観光案内の役割を果たしてくれるだろう。

そもそも、この取り組みは「北川村の活性化に向けて、大学生ならではの視点、大学生ならではの活動をいかせないか」という北川村から文化学部へよせられた相談をもとに発展していく

た。担当教員として、当初は「授業の一環」と位置づけていたが、受講生のなかには授業での経験を踏まえて「観光びらき」などのイベントに参加し、主体的に地域社会への関わりを深めていった。森林鉄道、村の伝承、星神社を対象としている。これまで県東部を訪問する機会が限られていた学生が多いなかで、貴重な機会となつた。地域社会の豊かな文化のなかで大学生が学ぶことの重要性を改めて気付かされた。

今回参加した学生のなかでも、小谷明日美さんと森本亜美さん(ともに平成23年度入学生)は、北川村のゆず産業に関する学びをもとにして、試供品であるゆずオイルのロゴシール、北川村温泉ゆずの宿のポスターを作成する



学生が作成した  
北川村温泉ゆずの宿のポスター

『きたがわかたる』に  
参加した学生メンバー

|         |         |
|---------|---------|
|         |         |
| 井上美友紀さん | 枝松明里さん  |
|         |         |
| 小谷明日美さん | 加藤愛理さん  |
|         |         |
| 高木麻奈美さん | 高橋わかなさん |
|         |         |
| 谷岡美咲さん  | 中間美希さん  |
|         |         |
| 平野陽太さん  | 森本亜美さん  |
|         |         |
| 和田綾花さん  | (五十音順)  |

# 人も木も、恋も運んだ森林鉄道

美しい森林が連なる山並み。悠悠と流れる奈半利川。  
かつて北川村では、森林鉄道が人や木や文化を運んでいました。



魚梁瀬森林鉄道 小島橋

森林鉄道めぐりで  
リフレッシュ。



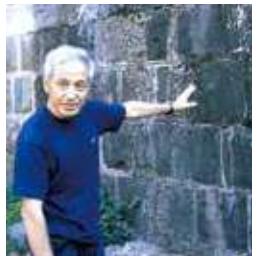
今回の森林鉄道めぐりの出発地点は魚梁瀬ダム近くの井ノ谷橋から。次に犬吠橋。しばらく下つていくと、コンクリートのアーチが見えてきます。それが堀ヶ生橋です。その近くに奈半利川と小川川がぶつかり合うところがあり、二股橋が架かっています。最後に北川村温泉ゆづの宿の近くにある赤鉄橋の小島橋へとめぐつていくルートです。あなたも北川村の森林鉄道を散歩しながらリフレッシュしてみませんか？



島地区的星神社近くの三本の大杉。見上げるほど大きい木が三本並んでいる。  
かつては日本各地にこんな巨木があったのだろうかと思いをはせる。



人も木も、恋も運んだ森林鉄道



二股橋の下を流れる奈半利川。ダムができる前はもっと流れが急だった。かつては川も利用して木材を運搬していた。

今回、森林鉄道を案内してくださったのは、「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」の山田英忠さん。趣味はマラソン。日本各地のマラソン大会に出場している。北川村で林業に携わっていた。その経験を活かし、今では森林鉄道のガイドもしている。とても元気なおじいちゃん。

橋があります。

山田さんによると、井ノ谷橋の近くの釣廻ヶ生集落ではかつて、およそ1000人が生活を営んでいて、散髪屋や映画館、パチンコ、スナックなど娯楽施設があつてとても賑わっていたそうですが、今では一人住んでいるかいないかだといいます。なんだかちょっと切ないです。しかし、映画館やパチンコなどの娯楽施設は都会のイメージなのでとても意外でした。かつて林業で北川村がどれほど栄えたかよくわかるエピソードです。

山田さんは井ノ谷橋から森林を見渡しながら、当時のことについて語ってくれました。当時は天気予報などの正確な予測システムはないので、木の葉の裏側がどれだけめくれるかを見て、台風が来るか来ないか判断したそうです。林業については「軽い木は浮く、黒くて重い木は沈む」「木は山側に必ず倒す」、「1巾幅に切って皮も剥いで売る」などの豆知識やルールを教えてもらいました。

井ノ谷橋は立派な橋であるだけではなく、森林を眺めることのできる絶好的な場所！あなたも是非、行ってみては？

## 井ノ谷橋



## 犬吠橋



曲がりくねった山道を進んでいくと、北川村と馬路村を繋ぐ森林鉄道・犬吠

木の葉の裏側がどれだけ「風」でめくれるかを見て天気を知る。

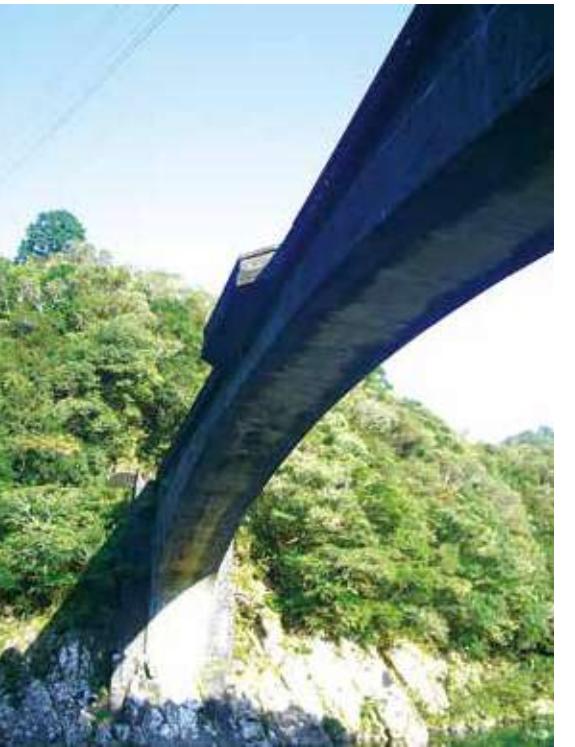
「重要文化財にふさわしい、立派な橋やろう」。案内役の山田英忠さんは誇らしげにそう語ってくれました。1924年に完成したこの橋は、かつては「笹ヶ瀬橋」とも呼ばれており、枕木の隙間から深い谷底が見えました。吸い込まれそうなくらいの高さがあるのです、高所恐怖症の人は要注意！

現在は村道として利用されています。近くには魚梁瀬ダムもあります。

文化財に指定されました。空の青、山の緑のなかに赤の鉄道はよく似合います。観光地では観光客の目に付きやすいように大きな看板が立てられているのですが、犬吠橋には景観を守るためにそれがありません。自然と溶け込むように架けられている鉄道に、不釣り合いな大きな看板が立てられていると看板の方に目がいってしまうでしょう。当時の姿をできる限り保存しようとしているのだと感じました。

テレビなどのメディアに取り上げられることが多いので、高所恐怖症の人は要注意！で問題になっています。それはボイ捨てされる「ゴミ」の量が多いことです。橋の下を覗くと空き缶やペットボトルが捨てられているのが目立ちます。せっかくの美しい景観が台無しになってしまふのは悲しいことです。一人ひとりがマナーを守り、美しい風景を守りましょう！

## 堀ヶ生橋



コンクリートのなかにレールが…？

森の中の巨大な1本のコンクリートのアーチ。これが堀ヶ生橋です。現地では「ぼりがうえ」と呼ばれています。

1941年に建設された充腹式単アーチ橋で、長さは46・9メートル、梁間の長さは約43メートルです。これは同じ時期につくられた同じ構造の橋の中では国内最大級であり、コンクリート技術史上で高い価値があるといわれ、

重要な文化財に指定されています。

この橋にはいくつか森林鉄道の面影が見られます。例えば、現在のコンクリートの建造物のほとんどは補強のために鉄筋が使われていますが、堀ヶ生橋は鉄筋の代わりにある変わったものが使われています。それはなんと、森林鉄道を施設したときに余ったレールなのです。

また、線路が取り外されて県道となつた現在も、橋の中央には待避所が残つております。これも森林鉄道が現役だった当時の情景をしのばせます。さらに堀ヶ生橋は日本最初期の森林鉄道

施設の1つであるため、普通の鉄道構造物とは異なる構法で建築されています。ここでは橋脚を四角く切った石を互い違いに積み重ねる「布積み」と呼ばれる構法でつくっています。

ついでに、この二股橋に来たら試してもいいかがでしようか？



堀ヶ生橋の橋脚。布積みで石が積まれている。



建造物の補強に使われたレール。

幸せになれる水で喉を潤わせる。

奈半利川の上流に向かって行くと、眺めの良い開けた場所に出でてきます。その場所から二股橋がよく見えます。二股橋の二連アーチの影が川に反射して眼鏡のように見えることから、地元の人々からは「眼鏡橋」という呼び名で親しまれています。線路がなくなり機関車は走らなくなつても、橋としての役割は終わつておらず、当時と変わらない姿で現役活躍中です。

この二股橋を見る際には、是非とも

水の色に注目してみてください。二股

橋の下を流れる小川川の水と、奈半利

川の水の合流地点を見ていただけると

よくわかりますが、はつきりと水の色

が違います。小川川の水は透明で奈半

利川の水は緑色です。これは、奈

半利川には魚梁瀬ダムと久木ダムがあ

り、そのためダムによって水の流れが

一度止まるので緑色になつてしまふ

のです。小川川にはダムがないので水

の色は透明で鮎も住んでおり、釣りを

している人もいました。

川の水の合流地点を見ていただけると

よくわかりますが、はつきりと水の色

が違います。小川川の水は透明で奈半

利川の水は緑色です。これは、奈

半利川には魚梁瀬ダムと久木ダムがあ

り、そのためダムによって水の流れが

一度止まるので緑色になつてしまふ

のです。小川川にはダムがないので水

の色は透明で鮎も住んでおり、釣りを

している人もいました。

川の水の合流地点を見ていただけると

よくわかりますが、はつきりと水の色

が違います。小川川の水は透明で奈半

利川の水は緑色です。これは、奈

半利川には魚梁瀬ダムと久木ダムがあ

り、そのためダムによって水の流れが

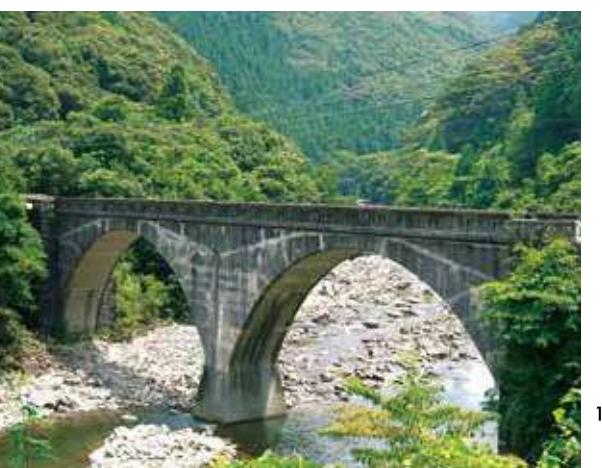
一度止まるので緑色になつてしまふ

のです。小川川にはダムがないので水

の色は透明で鮎も住んでおり、釣りを

している人もいました。

## 二股橋



小川川と奈半利川の合流地点。

さて、この二股橋に来たら試してもらいたいことが2つあります。

1つ目は、二股橋の駐車場のすぐ後ろにある水飲み場の水を飲むことです。なんでも飲むと幸せになれる水なだけとか。雨が降った次の日などを除けばちゃんと飲める水なので、是非、試してみてはいかがでしようか？

2つ目は、二股橋で白色の鯉を見つけてもらうこと。二股橋で白色の鯉を見つけると恋が叶うといわれています。残念なことに私は見つけることができませんでしたが、二股橋を訪れたら是非とも見つけてみてはいかがでしようか？

## 小島橋



山田さんによると、小島橋を作る際にボルトをふいて温めて、熱いうちに下から上へ放り投げて上の人が受け

られています。

北川村温泉の前の奈半利川にかかる巨大な赤い橋、それが小島橋です。小島橋は1932年に建設された鉄橋で、全長143.0メートル。森林鉄道遺産の中でも最大規模の鉄橋です。

その構造は現代の鉄道構造物と大きく異なっていて、ブレートガーター橋とトラス橋という構造の違う2つの橋からなり、橋台もそれぞれ違う構造をしています。

山田さんによると、小島橋を作る際にボルトをふいて温めて、熱いうちに下から上へ放り投げて上の人が受け

止めてはめていたというエピソードがあります。

山田さんによると、この森林鉄道を走る機関車はあくまで木を運ぶためのものであつたために、人が乗つても命の保証はしませんがそのかわり運賃は無料だったそうです。また、子供の頃は線路に石を置いて悪戯をしたり、線路のレールに耳を当てて近くに機関車が来るのがわかると、速度がゆるく

止めてはめていたというエピソードがあります。

山田さんによると、小島橋を作る際にボルトをふいて温めて、熱いうちに下から上へ放り投げて上の人が受け

# 不動の滝

なつたところで飛び乗つたり降りたりしたのだそうです。今考えると危ないです。

私は小島橋を渡る途中、鹿の糞を発見しました。どうやらこの奈半利川を渡るために小島橋を利用しているのは人だけではないようです。

動物たちが人と同じようにこの橋を渡っているところを想像すると微笑ましい情景だな

と思います。



小島橋を渡つて、森林鉄道跡を歩いて不動の滝へ向かうと、「不動さま」と呼ばれる神様が祀られていました。北川村のパワースポットのひとつです。何かパワーを得られるかも?一見の価値あります!



木漏れ日が優しく降り注ぎ、気持ちよく森林浴を楽しめる散歩コースとしてもおすすめです。

さいごに

## 今でも村民に愛される森林鉄道。

かつて林業で栄え、最盛期には約2000人の人々が作業していた北川村は、現在では柚子を中心とした加工産業やモネの庭などの観光地によって再び活気を取り戻しています。森林鉄道もかつてとは趣を変え、村道として利用されたり、散歩コースとして今でも村民に愛されています。余談ですが、奈半利の藤村製糸工場と森林鉄道整備工場はすぐ近くにあり、林業関係者と女工さんが出会う場所でした。また、森林鉄道の運転手はいわば花形の職業で、女性に大変モテたそうです。そんな中からいろんな恋が芽生えたりしたのかもしれませんね。人も木も、恋も運んだ森林鉄道。北川村を訪れた際には、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

## 北川村語り人



「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」

やまだひでただ  
山田英忠さん

昭和10年生まれ

元営林署の杣で退職後地元でゆず栽培を行う傍ら、森林鉄道のガイドとして活躍。趣味はマラソンで全国を駆け回る。



犬吠橋



井ノ谷橋



二股橋



堀ヶ生橋



小島橋

奈半利川支流の犬吠谷川に架かる橋長41.0mの鋼トラス橋。開通当時は木造でしたが、大正13年に単線仕様の上路式鋼製橋梁に架け替えられました。

明治44年から昭和38年まで、中芸5町村一帯を結ぶ「魚梁瀬森林鉄道」がありました。木材を運ぶことが鉄道の目的ですが、地域の唯一の交通機関として、人々の移動手段にもなりました。今は軌道跡ですが、歴史遺産ともいえる橋梁やトンネルなどの遺構が残っています。平成21年2月には近代化産業遺産群に認定、6月には森林鉄道としては日本で初めて国指定重要文化財になりました。北川村では5か所が指定されています。

# 魚梁瀬森林鉄道軌道跡

奈半利川支流の井ノ谷川に架かる橋長54.5mの鋼トラス橋で、枕木の隙間から深い谷底が見える橋として有名でした。犬吠橋と同じ大正13年に架け替えられました。

奈半利川に架かる橋長46.9mのコンクリートアーチ橋。近代に建築された充腹式単アーチ橋では、我が国最大級といわれています。(近代化産業遺産群)

奈半利川支流の二股川に架かる無筋コンクリート造の充腹式二連アーチ橋です。橋長46.5m、スパンの長さは約20mと、我が国最大級の無筋コンクリート造橋です。(近代化産業遺産群)

奈半利川に架かる単線仕様の鋼製橋梁で、昭和7年に建造されました。橋長は143.0mと森林鉄道遺構の中でも最も大規模な橋です。(近代化産業遺産群)

私たちは何度か北川村を訪れ、村の方々からお話を聞いていくうちに北川村にまつわる伝説が多くあることに気づきました。



## 生粹の土佐弁で伝説を感じる。

これらの伝説は、北川村ならではの魅力として、ひとりでも多くの人に興味を持つてもらうきっかけになればと思い、取り上げました。今回お話を伺ったのは、寺村嘉水さん、山本邦光さん、浜渦純章さんのお三方です。みなさんが地元の言葉で生き生きとお話をしてくださいました。また、ここでは文章は全て土佐弁で作り上げました。

あなたの中に刺さった棘も抜いてくれるかも…!?

## 釘ぬき様



昔話

あなたの心に刺さった棘も抜いてくれるかも…!?



釘貫大明神のお堂  
不思議な力を持ったといわれる釘ぬき様がこのお堂に祀られています。

エピソード

お堂の周りには（たまーに）白いヘビの目撃情報があります。これは釘ぬき様の御神体では? とされています。金のヘビもいるとかいいます。現在でも、村の人たちは食べ物がのどにつまつたときや、体にトゲが刺さったときに釘ぬき様の方向に向かってお祈りをするそうです。すると不思議なことにスッと抜けるらしいですよ。あなたの心に刺さった棘も抜いてくれるかもしれません。



島地区の星神社付近の大杉

小谷明日美  
森本亜美  
高橋わかな  
枝松明里

あなたは上る勇気、ありますか？

# 腹痛の岩

## 昔話



昔、むかし。ある男が、船を造るために星神社にあるこじやんと太い櫻の木を切り落とそうとしたらしいがよ。「これはえい木やき、きっと高う売れるにかわらん」と思いもって切りよつたがやけど、幹がうんと太うてなかなか切れん。今日はこればにして明日続きをやろう！」そつ思つてその日は帰つたがやと。ほんで次の日その場に行つたら昨日切つたはずの木が元に戻つちゅう。これはおかしいと思ってその晩見張りよつたら、なんと天狗が木くずを切り込みに入れて元に戻しよつたがやつて。今でもその木は星神社に残つちゅうがやと…。

## 昔話

2



昔むかし、北川村がまだ北川郷と呼ばれて、勢力争いをしようた戦国時代の話。北川郷に浜宇津（濱渦）十郎左衛門という殿様がおつたがよ。あるとき、一人の男に「鹿を取りに行かんかえ？」と誘われたき一緒に行つたがやつて。ほんで、十郎左衛門が鹿を狩つて帰りよつたら、急に岩陰から敵が出てきて腹を刺され殺されてしまつた。実は一緒に行つた男は敵やつて、十郎左衛門はだましうちにあつたがやと。敵が隠れちよつた岩には今も怨念が残つちよつて、その岩に触つたり上つたりしたらお腹に刺さるような痛みが走るがやつて…。

田んぼから帰るときに岩に上つてお弁当を食べたら、その夜にお腹が痛くなつた人もいたそうです。また、ある人が「あの岩に上つてはいけない」といふ周りの忠告を無視してぶざけで岩に上つたら、その夜にお腹が痛くなつたそです。なんと私たちが取材を行つたが痛くなつたときは、お堂にお参りに行くと治るそです。

エピソード

田んぼから帰るときに岩に上つてお弁当を食べたら、その夜にお腹が痛くなつた人もいたそうです。また、ある人が「あの岩に上つてはいけない」といふ周りの忠告を無視してぶざけで岩に上つたら、その夜にお腹が痛くなつたそです。なんと私たちが取材を行つたが痛くなつたときは、お堂にお参りに行くと治るそです。

たんです!!

今回お話をうかがつた山本さんの奥さんが前日、岩に生えた草を掃除したそです。する

天狗がやつくり矢で遊べるように射つた後は早めに帰つてあげましょね。痛みだし、横になつて休んでおられました。岩に上つてお腹が痛くなつたときは、お堂にお参りに行くと治るそです。

たんです!!

今回お話をうかがつた山本さんの奥さんが前日、岩に生えた草を掃除したそです。する

# 星神社の天狗

## 昔話

1

昔むかし、お弓祭りが済んで日も沈んだ頃、一人のおばあさんが神社に数珠を忘れてきてしもつたがやと。それを途中で思いだいて慌て取りに行つたらしくがよ。ほんなら天狗が矢で遊びよつたと。やぎ、おばあさんはびつくりして、どうしようかと思つたがよ。ほいたら天狗が近づいて来て「もういいへ来たらいかんぞ」と言つて、持つちよつた枝に数珠を引っかけておばあさんに渡したがやつて。それ以来、お弓祭りが済んだ日が暮れる前にみんなあうちにつるようになつたがやと…。



エピソード



木積の星神社  
天狗が現れるといわれている星神社です。

## 北川村語り人



寺村 嘉水さん

昭和3年生まれ

釣ぬき大明神のある野川羽毛地区に住み、所有者である岡家とも親交があり、様々な言い伝えを継承している。



山本 邦光さん

昭和3年生まれ

安倉地区で生まれ、長く地区的な代表者や農業委員を務めたこともある。数々の昔話や伝説に詳しく、安倉地区の生き字引である。



浜渢 純一さん

昭和17年生まれ

柏木（崎山）地区在住で古くから木積星神社の総代を務める。「星神社のお弓祭り」の責任者として2年に1度の一大行事を仕切る。

エピソード

北川村には星神社が三社ありますが、これらの言い伝えは、現在でも隔年でお弓祭りが行われている木積の星神社を舞台としています。現在でも、お弓祭りの一番最初の矢は、天狗にプレゼントするため射ります。この矢を射るときにはあることに気をつけなければなりません。それは「1. 上に向かつて射る。2. 矢が木の間をすり抜けなければいけない。3. 射つた後の矢は絶対に触つてはいけない」というものです。

# 天狗に会える場所!?

一歩いて見つける！星神社の魅力☆一

私たちは、北川村の星神社を訪問し、村の方々にお話しを伺いながら周辺を歩いてみた。  
星神社は北川村の島・和田・木積の3つの地区にある。



それぞれの呼び名  
がある星神社。

神仏習合の慣習をよく示す、独特な場所が北川村にはある。神社とお寺が同じ敷地内にあり、隣接している光景がよく見られる。3つの星神社でもそうした光景がある。地元のお年寄りは星神社とは呼ばずに「島は「成願寺」、和田は「妙楽寺」、木積は「金法寺」とそれぞれの寺の名前で呼ぶことがある。星神社といえばお弓祭りで知られているが、現在お弓祭りが行われているのは木積にある星神社だけである。



木積の星神社にて:神社の裏の木々。いかにも天狗が出そう。



木積の星神社の狛犬  
頭に注目!!

それぞれの呼び名  
がある星神社。

神仏習合の慣習をよく示す、独特な場所が北川村にはある。神社とお寺が同じ敷地内にあり、隣接している光景がよく見られる。3つの星神社でもそうした光景がある。地元のお年寄りは星神社とは呼ばずに「島は「成願寺」、和田は「妙楽寺」、木積は「金法寺」とそれぞれの寺の名前で呼ぶことがある。星神社といえばお弓祭りで知られているが、現在お弓祭りが行われているのは木積にある星神社だけである。

## 木積の星神社

木積の星神社は、神木や立派なくすのき、お寺のきしむ音や木々が風に揺れる音など、自然の様子が、いかにも天狗が出そうな雰囲気をかもし出している。

さらに、木積の星神社ではたくさん狛犬の姿を見ることができる。私たちが短時間で見つけただけでも、12体は確認することができた。その中でもひと際目を引いた2体がいる。この狛犬は普段目にする狛犬とは少し違い、頭が角刈りのようになっている珍しい姿をしている。ここを訪れた際には、ぜひ探してみてほしい。

高木麻奈美  
谷岡美咲  
和田綾花



島地区の星神社



## 和田の星神社

「おみくじ」と書かれたノート。



和田地区の星神社  
のおみくじ  
あなたの今日の  
運勢は?

最後は和田の星神社。この神社でぜひ  
ひやつてもらいたいのはおみくじだ。

お寺のほうにひつそりと置かれた、  
味のある古びた木箱がある。その箱を  
振ってみると数字の書かれたおみくじ  
が出てきた。よく見ると近くには、手  
書きの温かみ溢れる「おみくじ」と書  
かれたノートがあった。開いてみると、  
おみくじの結果一覧があり、誰でも自  
由におみくじを楽しめるようになつて  
いる。ちなみに、私たちの結果は「吉」  
と「中吉」。果たして「大吉」を引き  
たる人は現れるのだろうか? 我こそ  
はという人には、挑戦してほしい。

このように、名前は同じでもそれぞ  
れに違う歴史や魅力がある星神社。北  
川村を訪れた際には、3ヶ所すべてを  
回りその違いを見比べながら散策して  
ほしい。

最も印象に残った場所。  
木積だけでなく、島と和田の星神社  
にもまだ知らない魅力がたくさんある。  
私たちが見た中で一番印象に残つたのが島地区の星神社である。  
島地区的星神社は、他の星神社に比べ、太陽の光が差し込んでいるため、

明るい印象を受ける。近くには、元々  
神社があつた場所と思われる石垣跡を  
確認することができる。昭和51年の台  
風で島地区的地盤が崩壊し、そのときに  
神社も移転・改築されたことが偲ば  
れる。神社の歴史と照らし合わせながら、  
石垣跡を探してみるのも楽しいの  
ではないだろうか。

## 星神社の思い出



人生の達人たちから  
レクチャーを受けた。

私たちは、長年北川村で暮らしてき  
た3人の方から、昔の思い出話を伺つた。

和田地区的星神社でお話をしくだ  
さつたのが、前田博道さん。お寺と神  
社の見学をしたあと、「ここで行われて  
いる『お宮祭り』についてのお話を伺つ  
た。昔は夏と秋の年2回行われていた  
お祭りで、神輿と天狗と獅子とおたふ  
くを使って神社周辺を練り歩く『おな  
ばれ』があり、小さいときは怖くて泣  
いていたと懐かしそうに話してくれた。  
今では人が少くなり規模は小さく  
なつたものの、子供にもおなばれの役  
をやってもらいうなどし、地区の人々で  
このお祭りを続けているそうだ。

島地区に住む島岡豊秋さんからは、  
木積の星神社でお話をしくださつたの  
が浜渦純章さんだ。浜渦さんからは、  
お弓祭りやこの神社にまつわる伝説を  
沢山伺うことができた。この神社には  
天狗がいるという言い伝えがある。お  
祭りが終わつた後、数珠を忘れた女の

島の星神社にまつわるお話を伺つた。  
島岡さんは、昭和51年の台風で神社が  
移築された時のことを今でもはつきり  
と覚えていた。神社の移築は地区の住  
民にとって、大きな出来事だったのだ  
ろう。島も和田と同様に年に2回の神  
祭が行われ、かつてはおもちゃやお菓  
子の出店も多く子供たちはそれを楽し  
みにしていたと言う。当時の子供たち  
にとって、お祭りは一大イベントであつ  
たようだ。

**北川村語り人**  
**和田地区的前田博道さん**  
昭和18年生まれ。和田日曾裏地区在住で元北川村教育長。昔から役  
場職員として地元に住み、地区的歴史を見てきた。

**島地区の島岡豊秋さん**  
大正12年生まれ。島地区の古老で歴史にも詳しく、元北川村文化財  
保護委員や島地区星神社の総代を務めたこともある。また、地元JA  
の組合長も務めたこともあるゆず栽培のプロフェッショナル。

**崎山地区的浜渦純章さん**  
昭和17年生まれ。柏木(崎山)地区在住で古くから木積星神社の総  
代を務める。「星神社のお弓祭り」の責任者として2年に1度の大行  
事を仕切る。



|                   |      |
|-------------------|------|
| JR高知駅から車で         | 約80分 |
| 高知自動車道南国ICから車で    | 約70分 |
| 高知龍馬空港から車で        | 約60分 |
| 阿佐海岸鉄道 甲浦駅から車で    | 約80分 |
| 土佐くろしお鉄道 奈半利駅から車で | 約10分 |

イラストMAP、交通アクセスなど



発行／北川村観光協会  
安芸郡北川村野友甲1100(モネの庭内)  
TEL 0887-32-1233  
企画・制作／北川村観光協会  
高知県立大学文化学部  
『きたがわかたる』メンバー  
表紙イラスト／柴田ケイコ  
デザイン／キャップデザインスタジオ  
編集サポート／クリケット「季刊高知」編集部  
発行日／2021年1月



巨木を眺めて、立派な木だな～。歴史を感じます。



トンネルから今にも木を積んだ機関車が出て来そうな雰囲気。あれ…1人いない…。(嘘です)



Let's 水切り。真っ青な清流が流れる中で童心に返り遊びと、あっという間に時間が過ぎていきました。



運動会を見終わった帰りに田んぼで記念写真。  
北川村、大好き!!! ステキな夏をありがとう☆



森の緑の中に映える赤が印象的な小島橋。魚梁瀬森林鉄道跡の橋の中で一番大きいです。



北川村の清流をきっちり写真に収めます。堀ヶ生橋の真ん中は幅が少し広くて、撮影場所に最適かも。



廻穴岩群を眺めて（あつい川川）



前田さんにインタビュー由・木陰は涼しきな～



モネの庭でお散歩。色とりどりの花が四季の移ろいの中で変化していきます。



由緒ある星神社で散策 説明を聞いて勉強 勉強



脇痛の巻にまつわる伝説とは…?

北川村観光協会

<https://kitagawakanko.jp>